



一月二七日、四万十市立利岡小学校の全校児童三六名を対象に木工教室を開催しました。

まず、当センター職員から森林の働きについて話をしました。

森林は、木材を供給する外、水を貯えたり、山崩れを防いだり、二酸化炭素を吸収するなど普段は気がつかないようなところでもいろいろな役割をはたしていることを、絵や写真をつかって低学年にも分かり易く説明しました。

その後、ノコギリやクラフトナイフなど刃物の安全な使用方法を説明して木工

制作に取りかかりました。サクラの枝を使い、輪切りにしたり小枝を切ったりして、部材からすべて自分たちで作ります。

とにかくノコギリで木を切ることが楽しくて、職員の「何を作るの？」の問いにも首をかしげて「？」の一年生、クラフトナイフやドリルを器用に使って独創的なオブジェを作る六年生など、みな思い思いに作ります。

職員は、児童が作りたいたものにに応じてアドバイスをしたり、手伝ったりで大忙しでしたが、約二時間でクマのストラップや置物など、児童それぞれが趣向を凝らしたオリジナル作品を作り上げ、友達同士で見せ合っていました。

学校の周りでもカエデや

フウなどが赤や黄色に色づき、森林を眺めるにも良い季節で、「森の恵み」を一層感じてもらえたものと思えます。



みんな夢中



高知県四万十市立中筋小学校からの支援要請を受け、一月二九日は六年生一二名、二月四日は一、

二年生一〇名が木工製作に挑戦しました。

六年生への出前授業では、単に「木材と親しむ」

だけでなく、木材の役割も学んでもらおうと、まず、

「木材の持つ炭素貯蔵機能」の講義を行いました。

さすがに六年生ともなると、光合成に関する知識もあり、「木は製品になって

も二酸化炭素を貯え続ける」ことや「カーボンニュートラル」の話を良く理解しながら聞いていました。

いざ、木工制作になると、日頃遊んでいる時に思いついたのか、「釣竿立」といった、こちらが思いもよらないようなものに挑む男の子たちもいました。

結局、丸い枝と普段使用している工具では完成に至りませんでした。彼らも

自分たちの手に「負えること」と「負えないこと」を肌で感じ、何かを学んだようでした。

一、二年生は、バザー出店用に「クマのストラップ」を一人三個作製することを目標としましたが、時間内に作るため、予め桜の木の枝等の輪切りを木工ボンドで貼るだけの、簡単な方法で行いました。

簡単に作り方の手順を教えて始まると、あっという間に三個出来上がりしました。かわいらしく出来上がった「クマのストラップ」を見て一個は家に持って帰りたいという意見があり、結局余分に二個から三個作製しました。

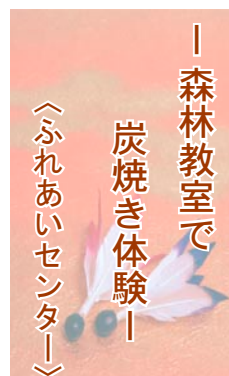
次に、マツボックリを使って「クリスマスツリー」作りに挑戦しました。ま

ず、土台となるサクラの枝を職員と一緒に鋸を使って切り、その上にマツボックリの底にホットボンドを付着し固定しました。そして、各自がマツボックリに思い思いにポスカで色を塗り、仕上げにキラキラのビーズをつけて完成。

この日の木工体験を通して、森林や木材への関心・興味に繋がる一歩となりました。



私はこれにしよう！



一月一五日、松野町立松野西小学校の四年生二六名を対象に、今年度最後の六回目となる森林教室（炭焼き体験）を行いました。

始めに、スライドを使って炭の種類や利用法を説明し、白炭と黒炭を使った実験をしました。ノコギリを使っての切断では、黒炭は簡単に切れたのに、白炭は堅くてなかなか切れませんでした。また、白炭を木の棒でたたくと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な音色がして、黒炭との違いに驚いていました。

続いて、炭焼き体験。児童達は、職員から手順や注意点を聞き、早速、ブリキ

缶の中にもみ殻とともに、マツボックリやドングリ、折り紙で折った鶴や手裏剣などを詰めて、ドラム缶のたき火の中へ並べました。

そして、アルミホイルに包まれたサツマイモが炭になるかについての実験もしました。たき火を囲み、焼くと約三十分、ブリキ缶から出る煙の色が透明になる一方、アルミホイルからは気になる匂いが漂いだし児童達はひそひそ、そわそわ。

どちらもたき火の中から取り出し、ブリキ缶が冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けて見ると、芋は皮だけが黒く焼けて焼き芋となり大失敗。しかし、折り鶴や手裏剣などはちゃんと炭になっていました。

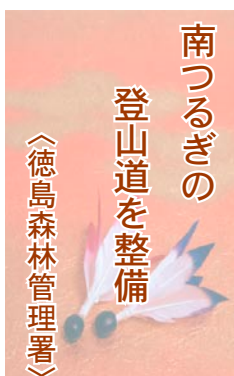
六月から始まった今年度の松野西小学校四年生の森林教室は、今回で終了とな

りましたが、これまでの森林学習の成果を、三学期に行われる「わくわく発表会」で発表することので楽しみです。

なお、失敗作の焼き芋は、みんなで美味しくいただきました。



白炭は堅くて切れない



一二月一日、徳島県那賀町の剣山の南斜面（鎗戸国有林一三四林班及びその周

辺）において、南つるぎ地域活性化協議会が主催した登山道の保全ボランティア活動「第三回おひさんプロジェクト」が行われました。

当日の参加者総勢二八名で、協議会構成員の徳島県南部総合県民局やNPO法人剣山クラブの会員の他に、協議会から呼びかけに応じた一般ボランティアの方々も参加していただきました。なお、当署からはサポートスタッフとして、総務課長、業務課長、木頭森林官の三名が参加しました。

作業前に業務課長から、最近歩道からの滑落、雑木の跳ね返りによるケガが起きていますので十分注意をして作業するように、参加者

にお願ひしました。当日は、大変気温が低く、上の方の剣山方向は雪模様



土のうによる階段作り

で、冷たい雪が舞う中で、作業となりましたが、剣山の中腹の「ほら貝の滝」までの登山道二・六kmを、登山者が安全にアクセスできるように、それぞれ手分けして登山道周辺の刈払いや落下した栈道の架け替え、土のうによる階段作設、滝つぼに流れ込んだ流木の除去などの作業を行いました。

半日たらずの作業時間でしたが、南つるぎの登山道は見違えるようにきれいになり、安全性も格段に高まったと思います。

当署としては、「国民の森林」である国有林を安全に楽しんでいただくため、このような取り組みに引き続き積極的に参画していきたいと考えています。



十一月八日、高松市塩江町において、「12 クリーンウォーク in しおのえ（不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦）」が行われました。

このクリーン作戦は、クリーン高松推進事業として、塩江町の三校区（安原・塩江・上西）衛生組合協議会が協同実施したもので、地域住民や一般市民ボランティア、行政関係者の

約八百名が参加しました。

当所は、ボランティアや高松市の関係者と一緒に、大滝山自然休養林がある鷹山国有林から大滝山県民いきの森キャンプ場にかけて巡回し、不法投棄の監視

やごみの回収を行いました。大滝山自然休養林は、高松市の水源となっている香東川こうとうがわの源流域に位置し、水源の森百選に選定され、また、大滝大川だいせん県立自然公園にも指定

されており、水源のかん養や保健休養の場として重要な地域となっています。

当日は、空き缶やペットボトルのほか、自転車、カーペット等を回収しました。

このクリーン作戦は、七回目の実施となりますが、日頃の住民の方の地域をきれいにしたいという思いや高松市の協力もあって、



回収したゴミ

年々ごみの量が減ってきています。今後も、ごみの不法投棄を防止するため、さらに地域や高松市等と連携を深め、巡視や清掃活動等の保全管理に取り組んでいきたいと考えています。



一〇月二〇日、二一日の両日、愛媛県久万高原町の久万公園ほかにおいて、「久万林業まつり」が開催されました。このイベントは、

森林・林業の活性化を通して地域の振興を図ることを目的として、久万高原町及び森林・林業関係団体等がステージでの催し、木製品・農産物等の展示・即売会、林業用刃物・飲食物の露店販売等を行っているもので、今年度で第四二回の開催となり、当署も毎年参加しています。

当署では、木の枝等を使った昆虫の絵づくりや森林の働き等を説明したパネル展示、パンフレット配布等を行いました。昆虫の絵づくりには、大勢の親子連れが訪れて、行列までできる人気となったため、二分の材料が一日で底をつきそうになり担当者をあわてさせるなど（材料を工夫するなどして何とか乗り切りました）うれしい悲鳴をあ

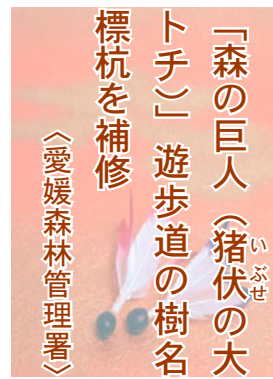


木を使うって楽しいね

げる状況となりました。

近年、子供のころから木と触れ合う「木育」が関心を集めています。改めて子供の想像力の素晴らしさに驚かされながらも、完成した作品を親に自慢しながら誇らしげに説明する子供たちを見ていて、木の素晴らしさと森林環境教育の重要性を再認識させられました。

一〇月三〇日、「森の巨人たち一〇〇選」に選定されている「猪伏の大トチ」への遊歩道（約二km）沿いに設置されている樹名標杭（約五〇本）の補修作業を行いました。これは、平成一九年に、えひめ森の案内人会、久万高原町巨樹・巨木保全協議会、愛媛森林管理署等で整備したもので、雪や豪雨等のため流出、傾斜・折損等が見られるようになったため、今回補修・整備することとしたものです。



ういったイベントに、積極的に取り組むこととしていきます。



樹名標杭を補修中

当日は、えひめ森の案内人会一三名と当署職員二名の一五名で、流出、折損しているものは交換し、傾斜しているものは、鍬、ショウレン、カケヤ等を使い埋設・固定し直しました。さらに、今回の修理に備え、

樹木と樹名標杭の写真や位置を図面に記録する作業も行いました。あいにくの曇り空で気温が下がり寒い一日となりましたが、鮮やかで多様な

色を放つ紅葉が始まっていて、これから訪れる多くの方々の喜ぶ笑顔を思うと、疲れや寒さも吹き飛び、充実した活動であったと感じることができました。

また、えひめ森の案内人会では、樹木名等の研修会も兼ねた活動とし、樹木に詳しい会員を講師として、ケヤキ平の樹木の勉強会も行いました。各会員は、「野草や野鳥はわかるのだが、落葉した樹木は難しいねえ。」と、図鑑等を眺みながら説明を受けていました。



補修・整備後の樹名標杭



一月二七日、高知市工石山青少年の家で大豊町立大杉小学校四年生九名（教員二名）を対象に森林教室を実施しました。

当初は、工石山において間伐作業を体験する予定でしたが、前日の降雨による足元の不安定さを考慮し、



森林教室（森の働き等）

屋内で森林教室を実施した  
ものです。

最初に「みんなでまわそ  
う森作りの輪 木づかいの  
輪」と題して、指導普及課  
より森の働きと間伐の必要  
性、木製品の用途について  
の説明したところ、子供た  
ちは様々な物に木が使われ  
ていることや、合板の作り  
方に驚きの声が上がってい  
ました。

その後、写真立ての見本  
を見せて作り方を説明した  
のち、個々に作業にとりか  
かりました。

どんぐりをたくさん使い  
タワーを作る子、細かい作  
業で小動物を作る子など子  
供たちの自由な発想で個性  
豊かな写真立てが出来上が  
りました。

最後に子供たちから、森  
のことをもっと勉強して

いきたいなどの感想をもら  
い、有意義な森林教室とな  
りました。



写真立て制作中



一二月二日、室戸青少年

自然の家が主催する体験の  
風リレーシヨンシップ事業  
「キッズデイ」のイベント  
に当署職員四名がクラフト  
講師として参加しました。

当日は高知県内各地の親子  
約一〇〇名を対象に親がク  
リスマスリース作り、子供  
が「壁掛け飾り」作りに挑  
戦しました。

壁掛け飾りを作る前に、  
森林を身近に感じてもら  
い、森林のはたらきを理解  
してもらうために、「森林  
からの贈り物」と題した紙  
芝居を当署職員が親子の前  
で読み聞かせました。



森林からの贈り物（紙芝居）

子供達からは「森林は  
手入れが必要ということ  
初めて知った。」「木はいろ  
んなところに使われている  
ことに気づいた。」「森林や  
動物の絵が面白かった」な  
どの感想がありました。そ  
の後、別室に移動し壁掛け  
飾り作りを開始。子供たち  
が自由に色を塗った星や雪  
だるまの木片や、国有林内  
で採取した木の実を、予め  
準備したクリスマスツリー  
を型取った板に貼り付けた  
りして作成しました。始め  
はとまどっている子供も多  
かったのですが、職員や大  
学生ボランティアのサポー  
トにより、自発的に工作に  
取り組みだし、中には夢中  
になり終了時間が過ぎても  
頑張っている子もいました。  
「この木の実はなんて名前な  
の?」「これはどこで採った  
の?」などの子供らしい声  
もあり、クラフト講師の職  
員も丁寧に応えながらの工  
作となりました。樹木に対  
する興味も深まり、また、  
大学生からも「どんぐりが  
樹種によって形や大きさな  
どが違うことを知らなかつ  
た。」という意見もあり、色々  
な人に森林への興味をもつ  
てもらいました。

準備したクリスマスツリー  
を型取った板に貼り付けた  
りして作成しました。始め  
はとまどっている子供も多  
かったのですが、職員や大  
学生ボランティアのサポー  
トにより、自発的に工作に  
取り組みだし、中には夢中  
になり終了時間が過ぎても  
頑張っている子もいました。  
「この木の実はなんて名前な  
の?」「これはどこで採った



素敵な作品完成

